

社会学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
理論社会学特論Ⅱ	リスクと無知の社会学	2	小松 丈晃	1	火曜2限
社会変動学特論Ⅰ	死と死にゆくことの社会学	2	田代 志門	2	水曜4限
社会変動学特論Ⅱ	地域社会の社会学	2	青木 聡子	1	火曜5限
社会学特論Ⅰ	質的フィールドワーク概論	2	徳川 直人	2	月曜3限
社会学特論Ⅱ	環境社会学のパーспек ティブ	2	講師(非)	1	集中講義
社会学特論Ⅲ	日本の思想遺産・主婦論 争を読む	2	妙木 忍	2	水曜2限
社会学研究演習Ⅰ	質的社会調査法	2	田代 志門	2	木曜2限
社会変動学研究演習Ⅰ	シンボリック相互作用論の 原点を読む	2	田代 志門	1	水曜2限
社会変動学研究演習Ⅲ	社会運動の社会学	2	青木 聡子	2	火曜5限
理論社会学研究演習Ⅲ	リスクと不確実性の社会 学	2	小松 丈晃	2	火曜4限
社会学研究実習Ⅰ	社会調査実習(1)	2	小松 丈晃	1	金曜3限 金曜4限
社会学研究実習Ⅱ	社会調査実習(2)	2	小松 丈晃	2	金曜3限 金曜4限

科目名：理論社会学特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小松 丈晃

コード：LM12206, **科目ナンバリング：**LIH-SOC602J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと無知の社会学

2・授業の目的と概要：講義形式で進める授業である。現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会学的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとのつきあい方について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学論「第三の波」等、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学的専門知の有り様について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼の間の捻れた関係、またそれがもた

3. 学習の到達目標：現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め
2. リスク社会論再訪—U. ベックの社会理論の検討—
3. 社会システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論とその影響
5. リスクと道徳（1）
6. リスクと道徳（2）
7. リスク社会と信頼（1）
8. リスク社会と信頼（2）
9. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
10. リスクガバナンスの考え方(1)
11. リスクガバナンスの考え方(2)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか—（1）
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか—（2）
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業終了後のミニットペーパーへの記入内容と平常点 40%＋レポート提出 60%で評価

6. 教科書および参考書：教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、参考にすべき文献を適宜指示します。

7. 授業時間外学習：授業において、適宜、自宅で行うべき学習課題を出す予定です。
授業時間外での資料収集に基づいた中間レポートも提出してもら予定です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：社会変動学特論 I

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：田代 志門

コード：LM23406, **科目ナンバリング：**LIH-SOC603J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死と死にゆくことの社会学

2・授業の目的と概要：現代社会における死の問題の特徴は、個人の選択の強調と医療の関与の増大にある。本講義では、主に終末期医療に関わる様々なトピックを取り上げ、こうした現状を批判的に捉え直すことを試みる。講義で具体的に取り上げるのは、世界各国で過去半世紀の間に急速に拡大してきた安楽死・尊厳死とホスピス・緩和ケアという 2 種類の「現代人の新たな死に方」である。いずれも法的・倫理的問題が含まれるが、講義はあくまでも社会（科）学な視点から行う。

3. 学習の到達目標：終末期医療の現場で生じている様々な課題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の進め方について
2. 現代社会における死（1）
3. 現代社会における死（2）
4. 「死ぬ権利」の社会学（1）
5. 「死ぬ権利」の社会学（2）
6. 「死ぬ権利」の社会学（3）
7. 終末期ケアの社会学（1）
8. 終末期ケアの社会学（2）
9. 終末期ケアの社会学（3）
10. 死生観の社会学（1）
11. 死生観の社会学（2）
12. 死生観の社会学（3）
13. 死と死にゆくことの現在（1）
14. 死と死にゆくことの現在（2）
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業時の平常点 50%、課題レポート 50%。

6. 教科書および参考書：田代志門，2016，『死にゆく過程を生きる——終末期がん患者の経験の社会学』世界思想社。

7. 授業時間外学習：適宜、授業で指示した課題に取り組む。報告を求められた際には、教科書・参考書以外の関係する文献・資料にも目を通して報告資料を作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

×

9. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。なお、講義のなかでは小グループでのディスカッションを通じて、教科書や講義の内容理解を深める機会を設けます。ディスカッションには積極的に参加してください。

科目名：社会変動学特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：青木 聡子

コード：LM12509, **科目ナンバリング：**LIH-SOC604J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：地域社会の社会学

2・授業の目的と概要：この授業では、環境社会学や地域社会学をベースとして、民俗学など隣接分野の手法も取り入れつつ、地域社会をとらえる際の視点や方法を学ぶ。その際に、エネルギーと災害復興というテーマに焦点を定め、具体的な研究に学んでいく。

3. 学習の到達目標：地域社会をとらえる視点を理解し、ガバナンスや合意形成のあり方を検討できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション——この授業の進め方、地域社会をとらえる視点(1)
- 2 地域社会をとらえる視点(2)
- 3 エネルギー資源からみた地域社会(1)——薪炭と地域社会
- 4 エネルギー資源からみた地域社会(2)——石炭と地域社会
- 5 エネルギー資源からみた地域社会(3)——大規模ダム開発と地域社会
- 6 エネルギー資源からみた地域社会(4)——原子力と地域社会Ⅰ
- 7 エネルギー資源からみた地域社会(5)——原子力と地域社会Ⅱ
- 8 エネルギー資源からみた地域社会(6)——再生可能エネルギーと地域社会Ⅰ
- 9 エネルギー資源からみた地域社会(7)——再生可能エネルギーと地域社会Ⅱ
- 10 災害復興からみた地域社会(1)
- 11 災害復興からみた地域社会(2)
- 12 災害復興からみた地域社会(3)
- 13 災害復興からみた地域社会(4)
- 14 災害復興からみた地域社会(5)
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：授業での報告およびディスカッションへの参加 40%、課題レポート 60%

6. 教科書および参考書：〔教科書〕茅野恒秀・青木聡子編，2023，『地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたのか』新泉社。
／〔参考図書〕辻岳史，2023，『コミュニティ・ガバナンスと災害復興——東日本大震災・津波被災地域の復興誌』晃洋書房。

7. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回は必ず出席してください。やむを得ない理由で出席できない場合には、事前にメールで連絡をください。

連絡先：soko.aoki.e7@tohoku.ac.jp

科目名：社会学特論Ⅰ

曜日・講時：月曜3限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：徳川 直人

コード：LM21307, **科目ナンバリング：**LIH-SOC605J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質的フィールドワーク概論

2・授業の目的と概要：社会学における質的方法の理論と方法について、より深く学ぶ。参加者はオリジナル教材を読み、資料収集、日常観察、フィールドノーツなどの実践を試みることで、理解を深める。その基礎のうえにたって、モダンバージョンの理論・方法とポストモダンバージョンの理論・方法とのちがいについて学び、新しい基準、倫理なども理解する。

3. 学習の到達目標：1) 質的研究法の技法、考え方、意義と限界が、より深く理解できるようになる。

2) フィールドワークやインタビューを実践できる必須素養が身につく。

3) 調査のモラルと倫理、責任について、より深く考慮できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の順に講じる。各項目についての下読みおよび宿題が必須である。毎回の授業で参加者はキーワードの説明や質問を求められる。学期末には試験ではなくレポートを課す。

1. 質的分析法入門
2. 感受概念
3. 方法としてのフィールドノート
4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計
5. 聞き書き
6. インタビュー
7. 自然主義的観察
8. 参与観察
9. グラウンデッドな接近法
10. エスノメソドロジー
11. エスノグラフィー
12. 事例分析とモノグラフ
13. 生活史とヒューマン・ドキュメント
14. アクション・リサーチ
15. 調査倫理

5. 成績評価方法：平常点（50%）と学期末レポート（50%）を総合的に加味して評価する。

6. 教科書および参考書：デンジン&リンカン『質的研究ハンドブック』、エマーソンら『方法としてのフィールドノート』（1995）、シュワント『質的研究用語事典』（2007）、細谷『現代と日本農村社会学』（1998）など複数を教室にて指示する。また、教材的読み物としてオリジナル資料を作成する。

7. 授業時間外学習：各項目についての下読みおよび宿題が必須である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：社会学特論Ⅱ

曜日・講時：集中講義

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：講師（非）

コード：LM98829, **科目ナンバリング：**LIH-SOC606J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境社会学のパースペクティブ

2・授業の目的と概要：環境社会学の主たる理論を学ぶとともに、具体的な問題をどのようにして理解するかを考える。公害や環境問題の時代を振り返りつつ、現在社会の環境問題を考えるパースペクティブを獲得する。そのうえで、問題構造の類似と差異に着目しながら、福島原発事故問題を事例に、環境社会学のアプローチに触れる。

3. 学習の到達目標：環境社会学の理論とパースペクティブを理解し、現代社会が抱える環境問題を考察するために応用できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス——社会学は環境をどう捉えるのか？
2. 被害構造論の来し方——身体からの出発
3. 地域被害構造論——身体と環境
4. 加害と被害——相補関係と偏在
5. まとめとディスカッション
6. 開発と保護——社会変動・社会運動
7. 自然の両義性と多義性——地方と都市のパースペクティブ
8. 生活環境主義とよそ者論——暮らしのなかでの対話
9. 観光の功罪
10. まとめとディスカッション
11. 認識枠組みと問題の見え方——福島原発事故を主たる事例として①
12. 〈加害—被害〉論と「復興開発」——福島原発事故を主たる事例として②
13. 「ふるさと」の地域被害構造論——福島原発事故を主たる事例として③
14. 災害と観光——福島原発事故を主たる事例として④
15. まとめとディスカッション

5. 成績評価方法：議論とレポート

6. 教科書および参考書：関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求，2009，『環境の社会学』 有斐閣。

7. 授業時間外学習：レポート、文献予習

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

なし

科目名：社会学特論Ⅲ

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：妙木 忍

コード：LM23210, 科目ナンバリング：LIH-SOC607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の思想遺産・主婦論争を読む

2・授業の目的と概要：本授業では、フェミニズムの歴史を学ぶとともに、日本の思想遺産である主婦論争を解説することを目的としている。さらに、男性や社会にもかかわる論点がなぜ女性の論点として論じられてきたのか、なぜ女性のライスコース選択をめぐる論争が時代や論点の変容を経ても繰り返されるのかなど、社会のメカニズムについても考察する。さらに、東大祝辞（2019 年）を読み解くことを通して、日本におけるジェンダー問題を把握し、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにしていきたいかを主体的に考える。

3. 学習の到達目標：フェミニズムの歴史について理解する。
ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。
自分の問題関心にそって問いを立て、解くことができる力を身に付ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、講義を中心に進める。レスポンス・カードを用いた質疑応答や発表も取り入れる。内容および進度は以下の通りである。

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 フェミニズムの歴史
- 第 3 回 ジェンダー研究の展開
- 第 4 回 家族の戦後体制
- 第 5 回 労働とジェンダー（統計データを読む）
- 第 6 回 主婦論争とは何か
- 第 7 回 第 1 次・第 2 次・第 3 次主婦論争
- 第 8 回 第 4 次主婦論争
- 第 9 回 第 5 次主婦論争
- 第 10 回 第 6 次主婦論争
- 第 11 回 主婦論争の通時的分析、日本におけるジェンダー規範の変容
- 第 12 回 発表と討論①
- 第 13 回 発表と討論②
- 第 14 回 東大祝辞（2019 年）を読む
- 第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：授業への関与度（15%）、レスポンス・カードの提出（15%）、宿題（20%）、発表（20%）、レポート（30%）

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。レジュメを配布する。参考文献は適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：授業の予習と復習、宿題、発表準備、レポート執筆。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出する。

科目名：社会学研究演習 I

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：田代 志門

コード：LM24209, **科目ナンバリング：**LIH-SOC608J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質的社会調査法

2・授業の目的と概要：一般的な質的研究法の概要を学んだうえで、ナラティブ研究法を中心に質的データ分析における多様なアプローチを理解する。また、複数の質的研究法によって執筆された論文を精読することで質的研究の実際に触れるとともに、既存の質的データ等を用いた模擬的な分析により質的データ分析法の基本を身につける。

3. 学習の到達目標：(1) 質的社会調査の歴史と意義を理解できるようになる
(2) 質的データの分析法を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 質的研究とは
- 2 質的研究におけるデータ収集
- 3 質的データの分析 (1)
- 4 質的データの分析 (2)
- 5 質的研究の倫理
- 6 ナラティブ研究法 (1)
- 7 ナラティブ研究法 (2)
- 8 テーマ分析
- 9 構造分析
- 10 対話／パフォーマンス分析
- 11 ヴィジュアル分析
- 12 質的研究の妥当性
- 13 質的データ分析の実践 (1)
- 14 質的データ分析の実践 (2)
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

6. 教科書および参考書：Catherine Kohler Riessman, 2008, Narrative Methods for the Human Sciences, Sage Publications.
(大久保功子・宮坂道夫訳, 2014, 『人間科学のためのナラティブ研究法』クオリティケア.)

7. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
×

9. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会変動学研究演習Ⅰ

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：田代 志門

コード：LM13209, **科目ナンバリング：**LIH-SOC609J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：シンボリック相互作用論の原点を読む

2・授業の目的と概要：シンボリック相互作用論は、1960 年代当時アメリカの社会学において主流だった機能主義社会学への対抗軸として現れ、意味の解釈をめぐる人びとの相互作用に着目して社会を描き出すアプローチを打ち出したとされる。しかしその一方で、現在ではこうした視点は社会学一般において共有される前提となっており、何がシンボリック相互作用論に特徴的な視点なのかが見えにくくなっている面もある。そこで本講義ではシンボリック相互作用論のマニフェストでもあるハーバート・ブルーマーの『シンボリック相互作用論』を取り上げ、関連する研究成果と併せ

- 3. 学習の到達目標：**(1) 『シンボリック相互作用論』の内容を精確に理解する
(2) シンボリック相互作用論の特長を明確化し、その現代的な可能性を探る

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 演習の進め方について
2. シンボリック相互作用論とは
3. 『シンボリック相互作用論』を読む (1)
4. 『シンボリック相互作用論』を読む (2)
5. 『シンボリック相互作用論』を読む (3)
6. 『シンボリック相互作用論』を読む (4)
7. 『シンボリック相互作用論』を読む (5)
8. 『シンボリック相互作用論』を読む (6)
9. 『シンボリック相互作用論』を読む (7)
10. 『シンボリック相互作用論』を読む (8)
11. 『シンボリック相互作用論』後の議論 (1)
12. 『シンボリック相互作用論』後の議論 (2)
13. 『シンボリック相互作用論』後の議論 (3)
14. 『シンボリック相互作用論』後の議論 (4)
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業内での報告・発言 50%、課題レポート 50%

6. 教科書および参考書：Herbert Blumer, 1969, Symbolic Interactionism: Perspective and Method, Prentice-Hall. (後藤将之訳, 1991, 『シンボリック相互作用論』勁草書房.)

7. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

×

9. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会変動学研究演習Ⅲ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：青木 聡子

コード：LM22510, **科目ナンバリング：**LIH-SOC617J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会運動の社会学

2・授業の目的と概要：本演習では、社会運動の研究書／研究論文および資料の講読を通じて、(1)NPO／NGO、ボランティア、社会運動を多角的にとらえるための理論や方法を理解することと、(2)学術論文を批判的に読む能力を身に着けることを目的とする。

3. 学習の到達目標：(1)具体的な事例をふまえて社会運動の多様な側面を理解し、さまざまな社会問題と向き合う人びとをとらえる手法を身に着ける。(2)研究論文を自らの問題関心や社会的・社会学的文脈の中に位置づけて読むことができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

NPO／NGO、ボランティア、社会運動の基礎知識や理論および分析枠組みについて学んだのちに、NPO／NGO、ボランティア、社会運動に関する学術書や学術論文を講読する。講読するテキストは、受講生が関心のあるテーマに応じて選定する。

- 1 インTRODakション
- 2 社会運動研究の理論、分析枠組み
- 3 社会運動研究の展開プロセス(1)
- 4 社会運動研究の展開プロセス(2)
- 5 社会運動研究の展開プロセス(3)
- 6 社会運動研究の展開プロセス(4)
- 7 社会運動研究の展開プロセス(5)
- 8 社会運動研究を読む(1)
- 9 社会運動研究を読む(2)
- 10 社会運動研究を読む(3)
- 11 社会運動研究を読む(4)
- 12 社会運動研究を読む(5)
- 13 社会運動研究を読む(6)
- 14 社会運動研究を読む(7)
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：授業での報告およびディスカッションへの参加 40%、課題レポート 60%

6. 教科書および参考書：濱西栄司・鈴木彩加・中根多恵・青木聡子・小杉亮子，2020『問いからはじめる社会運動論』有斐閣.

7. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回は必ず出席してください。やむを得ない理由で出席できない場合には、事前にメールで連絡をください。

連絡先： soko.aoki.e7@tohoku.ac.jp

科目名：理論社会学研究演習Ⅲ

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小松 丈晃

コード：LM22408, **科目ナンバリング：**LIH-SOC613J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと不確実性の社会学

2・授業の目的と概要：不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つとなっている。この授業ではリスクや不確実性に関する社会学の定評あるテキストを取り上げ、多様なテーマをリスク概念と関連づけながら議論していくことで、受講生とともに、「リスク社会化」する社会を、社会学的にいかに論じうるかを探ってみたい。とくに、いわゆる「リスク社会」論では相対的に見過ごされてきたジェンダーとリスクとの関連について、考察する。

3. 学習の到達目標：・社会学の外国語専門文献の読解方法を習得する
・リスクや不確実性を社会学的に論じるさいの基本的視角を学ぶ
・ジェンダーとリスクとの関連を捉えるための視角を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. リスク論の社会(科)学的基礎
3. リスクと社会理論
4. ジェンダー化されたリスクの視点(1)
5. ジェンダー化されたリスクの視点(2)
6. ジェンダー化されたリスクの視点(3)
7. ジェンダー化されたリスクの視点(4)
8. リスク、エッジワーク、マスキュリティ(1)
9. リスク、エッジワーク、マスキュリティ(2)
10. リスク、エッジワーク、マスキュリティ(3)
11. リスク、エッジワーク、マスキュリティ(4)
12. 犯罪のリスクとジェンダー(1)
13. 犯罪のリスクとジェンダー(2)
14. 犯罪のリスクとジェンダー(3)
15. まとめ

5. 成績評価方法：平常点 50%と提出レポート 50%による。

6. 教科書および参考書：Kelly Hannah-Moffat & Pat O'Malley(eds.), 2007, Gendered Risks, Routledge-Cavendish

7. 授業時間外学習：受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキスト（英語）を読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはならない。入念な予習と復習が要求される。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：社会学研究実習Ⅰ

曜日・講時：金曜3限、金曜4限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小松 丈晃

コード：LM15307, **科目ナンバリング：**LIH-SOC615J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習（1）

2・授業の目的と概要：社会調査実習（1）の目的は、次の2点である。（1）社会調査の理論と方法を理解する。（2）社会調査のための問題設定、仮説構築を行う。この授業では、社会調査の基礎と概要（意義・種類・方法・歴史・課題・調査倫理など）を学ぶとともに、社会調査実習（2）で予定されている現地での調査実施に向けた準備作業までを行う。

3. 学習の到達目標：・社会調査のための基本的な方法を習得する。
・社会調査を行うための仮説構築を行えるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は「対面授業のみ」で実施する。

1. 社会科学と社会調査
2. 社会理論と社会調査
3. 社会調査における価値・倫理
4. 社会調査の方法（1）
5. 社会調査の方法（2）
6. 社会調査の方法（3）
7. 社会調査の方法（4）
8. 社会調査の方法（5）
9. 問題の設定（1）
10. 問題の設定（2）
11. 既存調査の検討（1）
12. 既存調査の検討（2）
13. 仮説の構成（1）
14. 仮説の構成（2）
15. 調査対象の選定

5. 成績評価方法：授業への出席と発言50%+（ミニレポートも含めた）課題レポート50%

6. 教科書および参考書：参考文献は、授業で適宜、指示します。また、適宜、必要な資料を配付します。

7. 授業時間外学習：毎回、課題が課されますので、受講者は、前回の授業の復習としつつ、次の授業に関する入念な予習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：社会学研究実習Ⅱ

曜日・講時：金曜 3 限、金曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小松 丈晃

コード：LM25308, **科目ナンバリング：**LIH-SOC616J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習（2）

2・授業の目的と概要：社会調査実習（2）の目的は次の2点である。（1）インタビュー調査の技法を習得する。（2）設定したテーマに関して社会調査を実施し、その分析を行う。この授業では、社会調査の技法について理解を深めるとともに、社会調査実習（1）で行った準備作業を踏まえて調査を実施する。その過程をつうじて調査と分析の技法を習得する。

3. 学習の到達目標：・インタビュー調査の技法を習得する。

・設定したテーマについて社会調査を実施しその分析を行えるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 調査の企画
2. 調査項目の設定（1）
3. 調査項目の設定（2）
4. インタビューの技法（1）
5. インタビューの技法（2）
6. インタビューの実施（1）
7. インタビューの実施（2）
8. 調査結果の処理（1）
9. 調査結果の処理（2）
10. 調査結果の分析（1）
11. 調査結果の分析（2）
12. 調査結果の分析（3）
13. 調査報告書の企画
14. 調査報告書の作成
15. 調査報告（口頭発表）

5. 成績評価方法：授業への出席と発言 50%＋（ミニレポートも含めた）課題レポート 50%

6. 教科書および参考書：参考書は、授業の中で適宜、指示します。また、必要に応じて、資料を配付します。

7. 授業時間外学習：毎回、課題が課されますので、事後的な課題への取組と、次の授業までの入念な予習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：